

賤嶽戰場圖會
五

ル 4
3788
5



凡生
號 3788
卷 5

賤ヶ嶽惣圖之五



一 沼田家本陣梁ヶ瀬迄

里数 三里

一 後徳川清洲御嶽迄

同 拾九里余

一 沼田家本陣長之陣迄

同 一里 但五十丁

一 大石本陣迄

同 四十丁

早稲田 大塚 豊田
25.12.16
藤 赤

一 茶臼山チウスの平ひら陳ちん近

同 廿五丁

曰 林麻近

同 世丁

一 高井たかい陳ちんの平ひら陳ちんと

同 廿五丁

曰 大岩山近

同 七丁

一 本陳ほんちんの平ひら陳ちん近

同 二丁

一 越こし前まへ茶城ちやじやう梁りやうの平ひら陳ちん近

曰 廿七里余

一 梁りやうの平ひら陳ちん近

曰 一里余

一 後ごの平ひら陳ちん近

同 四十丁

一 堤つゝみ本ほんの平ひら陳ちん近

曰 廿五丁

一 後ご坂さか口くち邑ちやう京きやう都と近

曰 廿五里半

右

北湖 賤ヶ嶽圖會卷之五

目錄

東柗埜邑

西柗埜邑

旗立松

梅溪

市場邑

賤ヶ嶽

脇陳

庭戸濱

兵糧濱

北湖 賤ヶ嶽圖會卷之五

東柗埜邑

賤ヶ嶽の南にありて相去る事

是後備之

そとに幾重の障子ありて其の後の間道と

登り大岩の林蔭の影の後に討人の跡あり

多々田圃小に記しもあると電殿公

張あとの字を田の面に存に

西柗埜邑

東柗埜邑にありて西にありて柗埜と

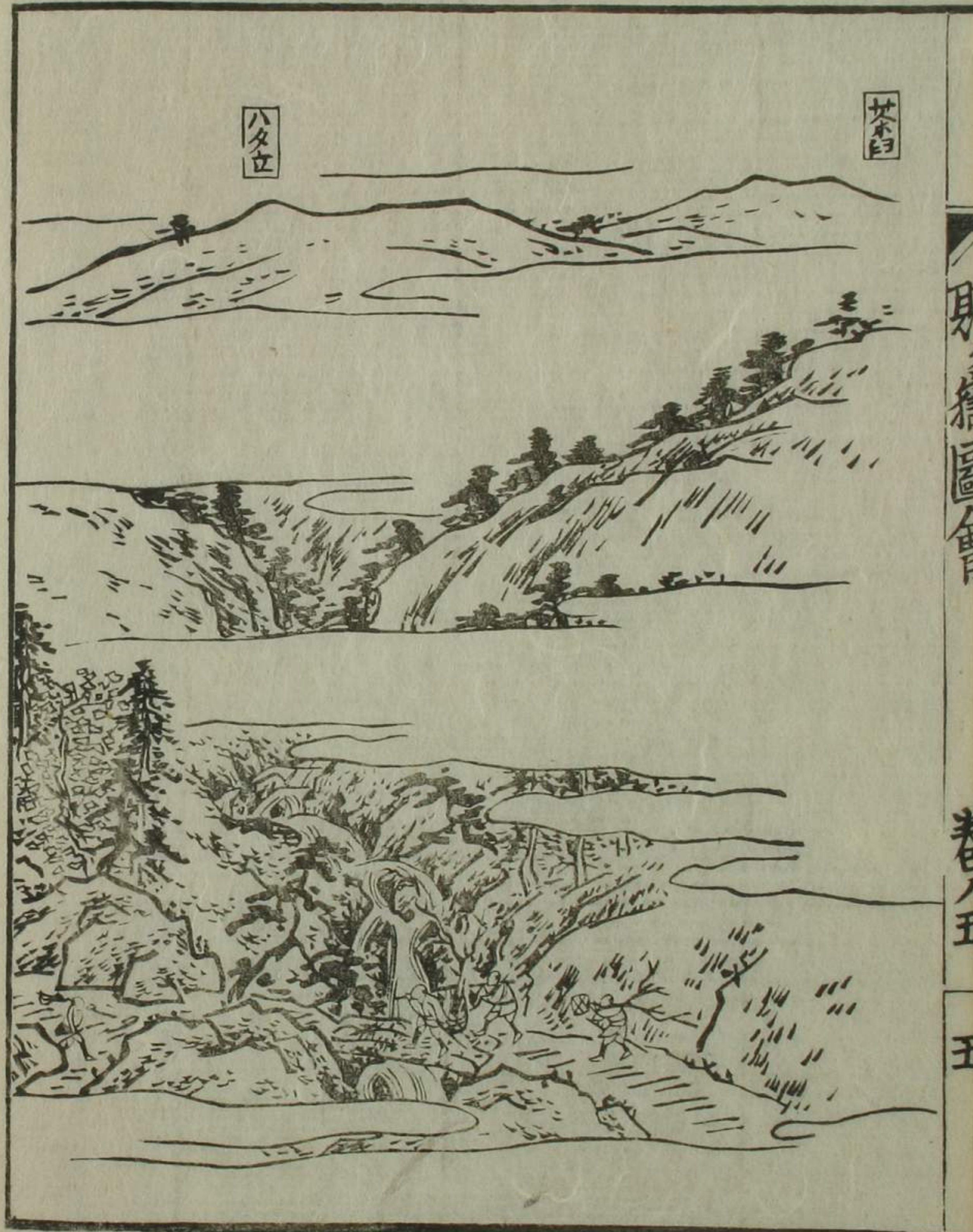
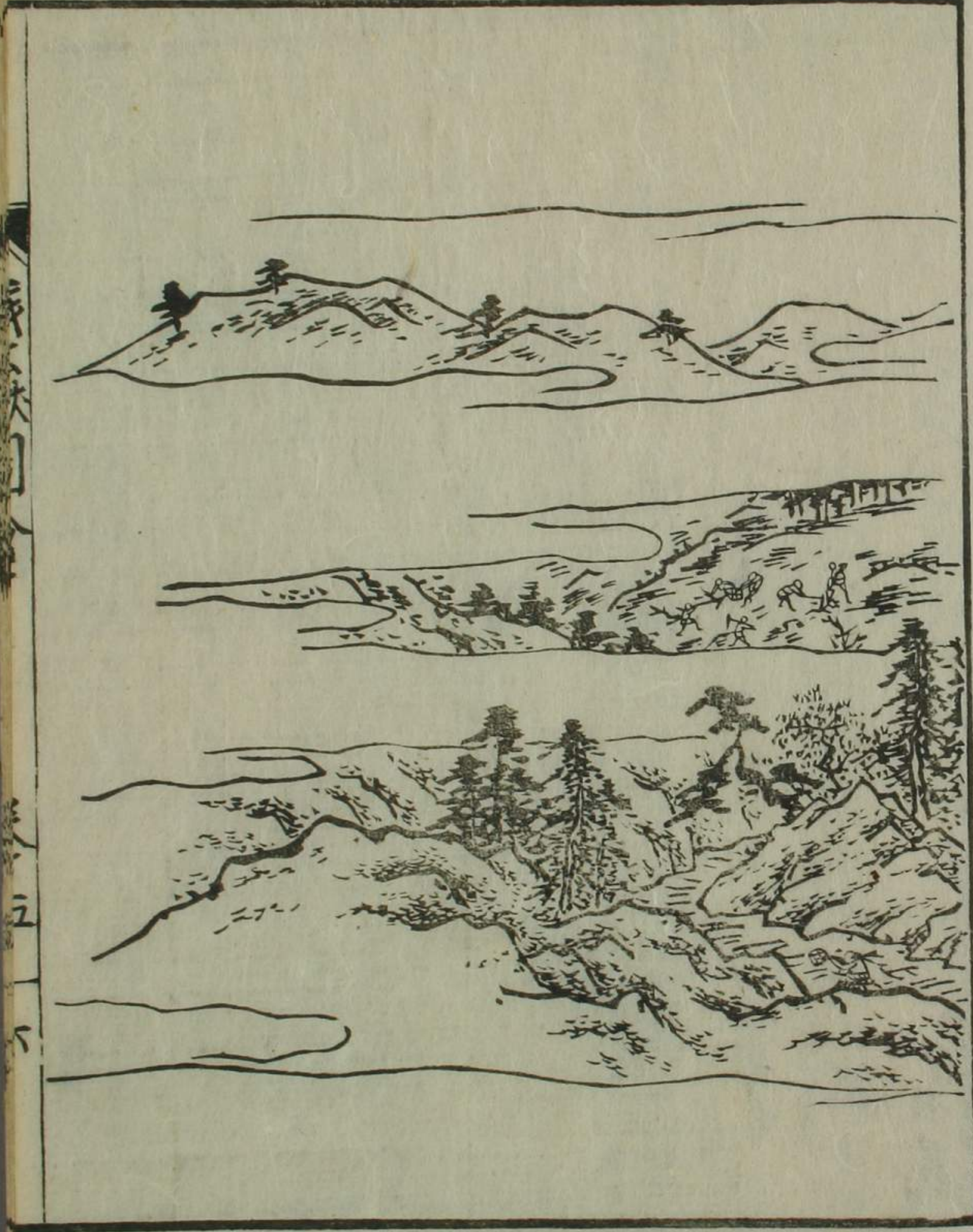
名づけしその名をいふとすくふ

柳屋左兵衛督とやんりふ雲客罷あつて
 こゝに於ては年々うらふ使りあり金月廿九
 のまほひまつせしむ督よのころ極くせし
 く自ととこぼち池と堀と水と堤耕作せ
 うらまに回居お公とあつてひとり東あり
 東河に随ひたりおし比岡御殿にりて一村
 後年船昌はるるや二村と成りし
 督よの泉下の家と如里人廟と建て春秋
 お参りしりよとて柳屋の祿号色と成せよと
 じりもあはれぬと廟の形ははらばらけぬとも

田中不宮あり是廟ありんら皆ち人の説き
 あはれはらばらけぬと大氣とるるに柳屋の如
 んに赤い砂は花書小足とてはと後う時
 代明あつたは古物歌也

旗立松

旗立のまのまのふあつて幸徳とあること
 之小籠とまろくあにうせん思ひて旗立のつ
 形くまろく人乃説ありて軍備とあり
 ち里人お懐ふりよありて中ありて
 在戦りいりありとあるが如く



樂々おしりく小多附候と送るにや十百費と
 是物と坊ん巧くきははしりと備え何り
 此ら多と隠れ人つふれ小信より流列を云
 乃得斗小対候と怒りて笑しり
 ハあつひもつ小きりて笑と望に

市場色

物ざげとち事一單一我のさげハ後備の兵
 之あり中ち玄願主の波とさげ海井金
 盛の初と老保乃向身無名品一して於面本三の
 日市ありそのあつこう市場とつあつひのあつ

ち一丁後の市とろハ近御群とあつこつ
 魚一店くよこなる鮮るあり道々あり
 ありて玳瑁珊瑚馬獨のる玲瓏と信ととあ
 つば雲にしてけこの意版と捕と捕乃とさ
 こちつ六津板八脚の札小鳥憎子ありじり
 佛且佛意のさすくこち介八百百比八百
 やそのおりんめーも時ゆてハまがびさあ

幾ヶ嶽

北面を庭戸候分續てと也裾ハ松栢桂桜枝
 一がく是れ橋にして三の曲橋あり大木産の

横山 大木産の

江八段、赤岩方四尺斗、此の左、右、不、あり、是、
 馬、此、赤、岩、の、方、一、凡、三、の、曲、輪、に、人、敷、十、
 五、ハ、終、ら、る、一、一、ま、た、上、ハ、芝、原、に、て、二、の、曲、輪、
 跡、成、り、家、こ、つ、小、清、泉、口、つ、り、て、常、子、の、あ、
 り、ま、し、林、麓、に、林、石、と、流、き、お、て、林、麓、に、た、ら、田、畔、と、
 め、が、り、赤、岩、の、影、向、湖、小、倉、に、あ、泉、軍、中、の、あ、も、
 せ、一、曲、輪、一、の、曲、輪、お、も、七、の、ハ、終、ら、る、一、
 み、の、ま、た、方、に、ち、の、一、層、屋、に、お、り、南、の、ま、た、
 一、で、ち、ち、の、中、に、あ、つ、く、八、寸、角、に、一、
 長、サ、六、尺、傍、石、あり、東、西、南、北、の、も、ん、字、

分明、あ、ま、る、も、下、に、文、字、ハ、わ、く、く、で、ん、ま、ら、
 あり、す、り、に、好、み、の、徒、建、ら、ぬ、下、と、云、早、あ、ま、ら、
 と、ま、ち、ち、く、如、南、を、の、と、ん、ち、ま、た、文、字、流、し、ぬ、
 一、一、卒、隊、に、も、三、百、七、十、卒、ハ、終、ら、る、一、一、終、り、
 間、道、あり、是、林、石、大、岩、に、お、つ、く、ま、み、ち、あり、
 一、一、曲、輪、一、つ、て、三、の、輪、に、の、る、ま、
 一、一、か、か、ま、ら、ぬ、石、足、跡、に、大、岩、の、の、り、成、け、家、
 柿、人、敷、敷、あり、終、り、と、斗、る、ハ、木、五、尺、四、寸、と、い、
 一、一、人、と、り、こ、も、二、千、人、と、い、ゆ、一、一、城、廓、跡、石、に、
 一、一、木、戸、二、の、木、戸、の、間、と、外、形、と、い、ふ、人、と、斗、の、

由縁ゆえぬる家こころ甲陽こうやう龜鑑きかんよち法ほうとをり
予よをりあり

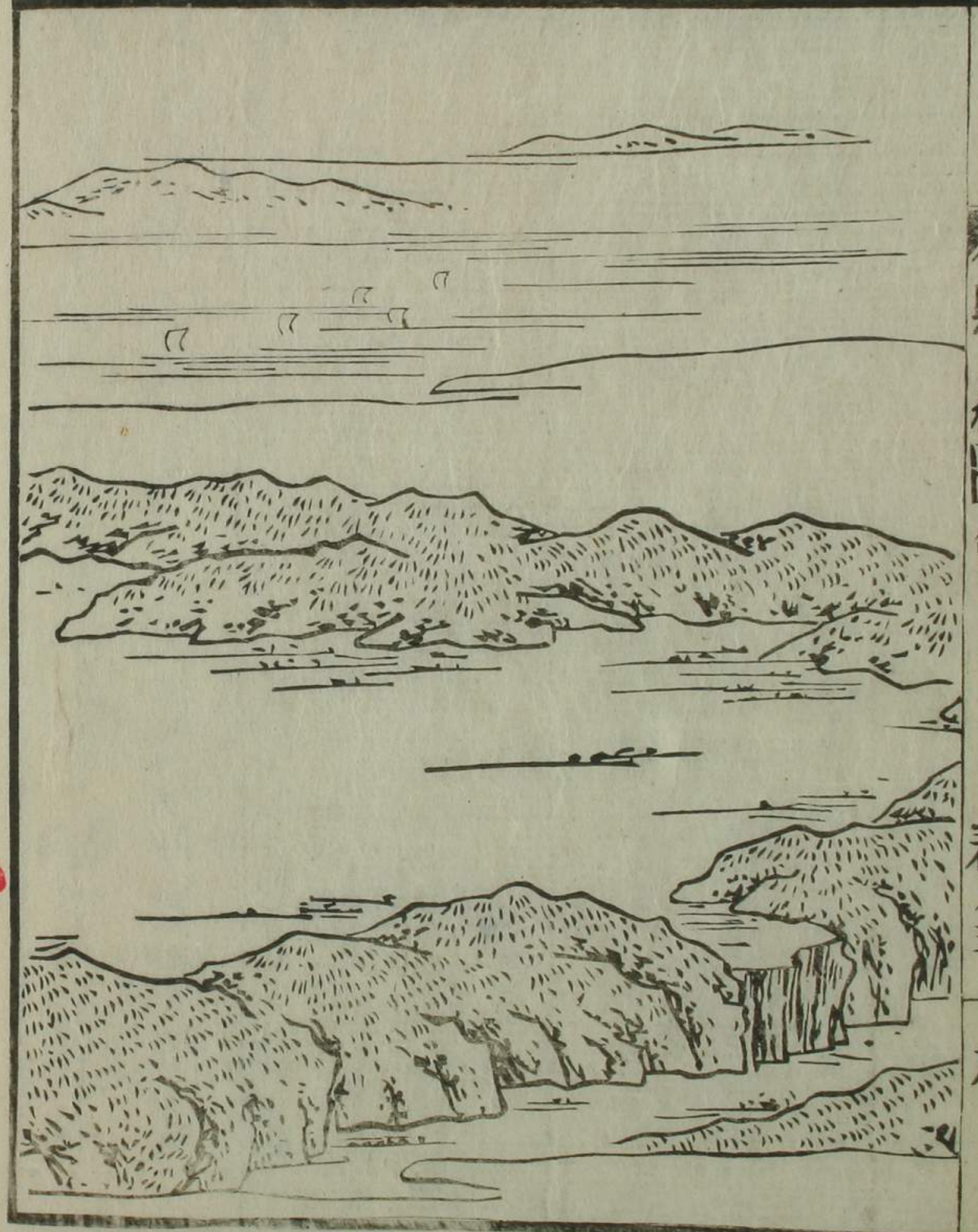
予よ家けの系けいハ備びふハ中ちゆうく女子にょしの徒とが建たにハ
不可ふか有あねば秀しゆ吉きちそれ威い名な四し海かいよかハ
力ちからハ冥みやう白はくとぬ修しゆのの後のち后ご代だい義ぎ芳ほうと
一いっめんれれ光くわう時じの碩しやく学がくに法ほうと書かせ
よ建たくく色しき一いっちち一いっ法ほう文ぶんああささら
ああババモモ徒と著ちやく者者法ほう事じ一いっ不ふ如にああるるああら
ゆゆちちああららばばままとときき格かくとと

職陳

是長蛇こゝろれ陳ちん勢せいと法ほうられれ一いっぬぬ一いっ預よを大だい志し
ふふ一いっ尾びと奉ほう陳ちんとけけと先せんけけららと職しやく陳ちんとせせ
ああららんん陳ちんと討たうババるるふふ陳ちん及おび秀しゆ長ちやう陳ちんのの助すけ
ああとと及おび時じハ奉ほう陳ちん分ぶん討たうのの方ほう便べんありり一いっ合が
備びせせるるののとときき依い久きうららああままとと討たうてて中ちゆう川がわハハ我われ
死しせせししむむののぬぬふふるるふふハハああくく助すけべべとと秀しゆ長ちやう
一いっ法ほう加かりり秀しゆ長ちやうハハ長ちやう治ち儀ぎににええくく中ちゆう川がわととす
ああららぬぬ微いぬぬハハ言ごんふふ山さん并へい田でんととふふのの系けいにに有あるるハハ累らい以いのの職しやく
陳ちんと秀しゆ長ちやう尾びととああららるるのの備びありりああらら又また尾びとと法ほう
アアババ首しゆ股こおお海かいのの法ほうににくく是しとと長ちやう蛇じやく三さん鼎ていとと法ほう



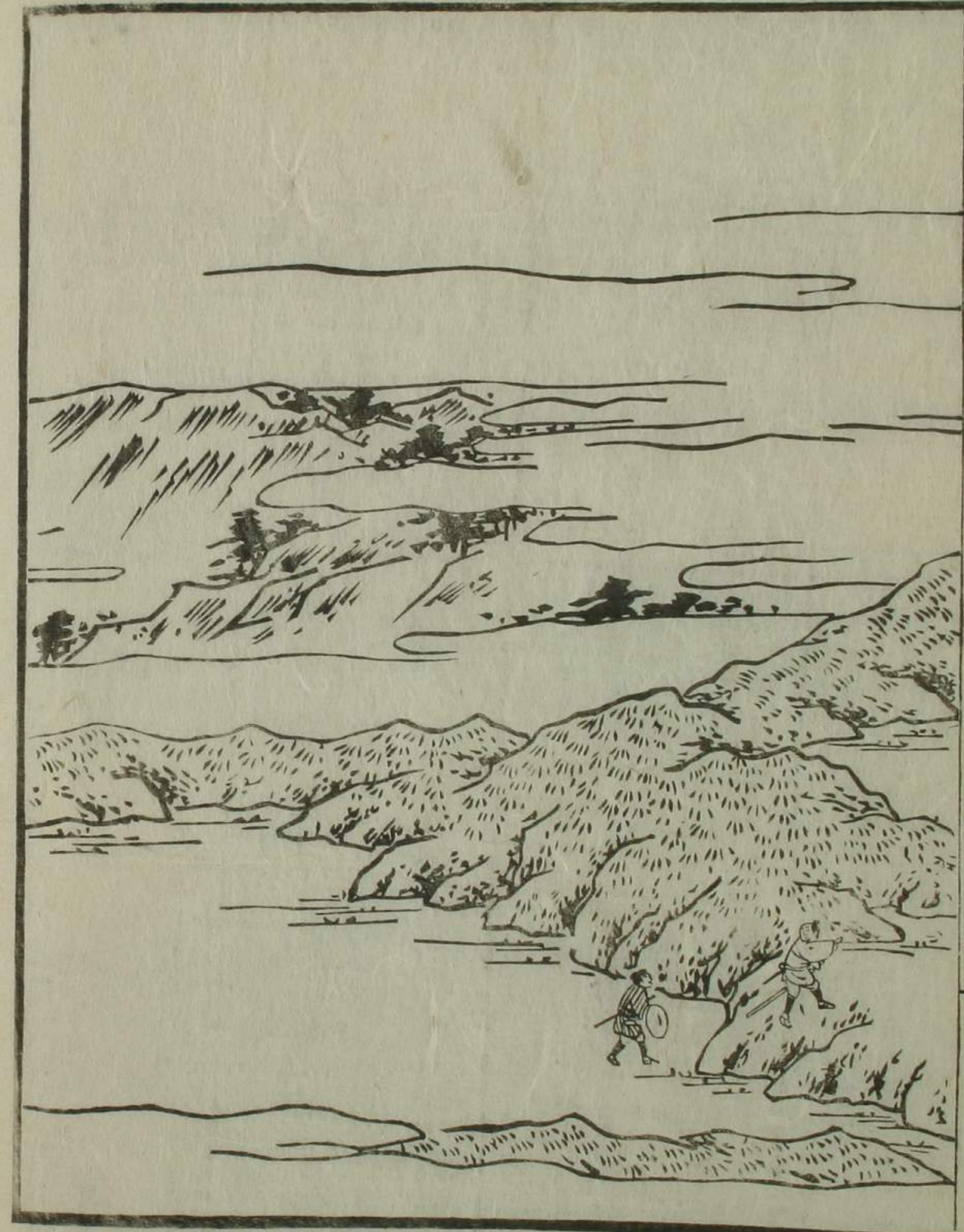
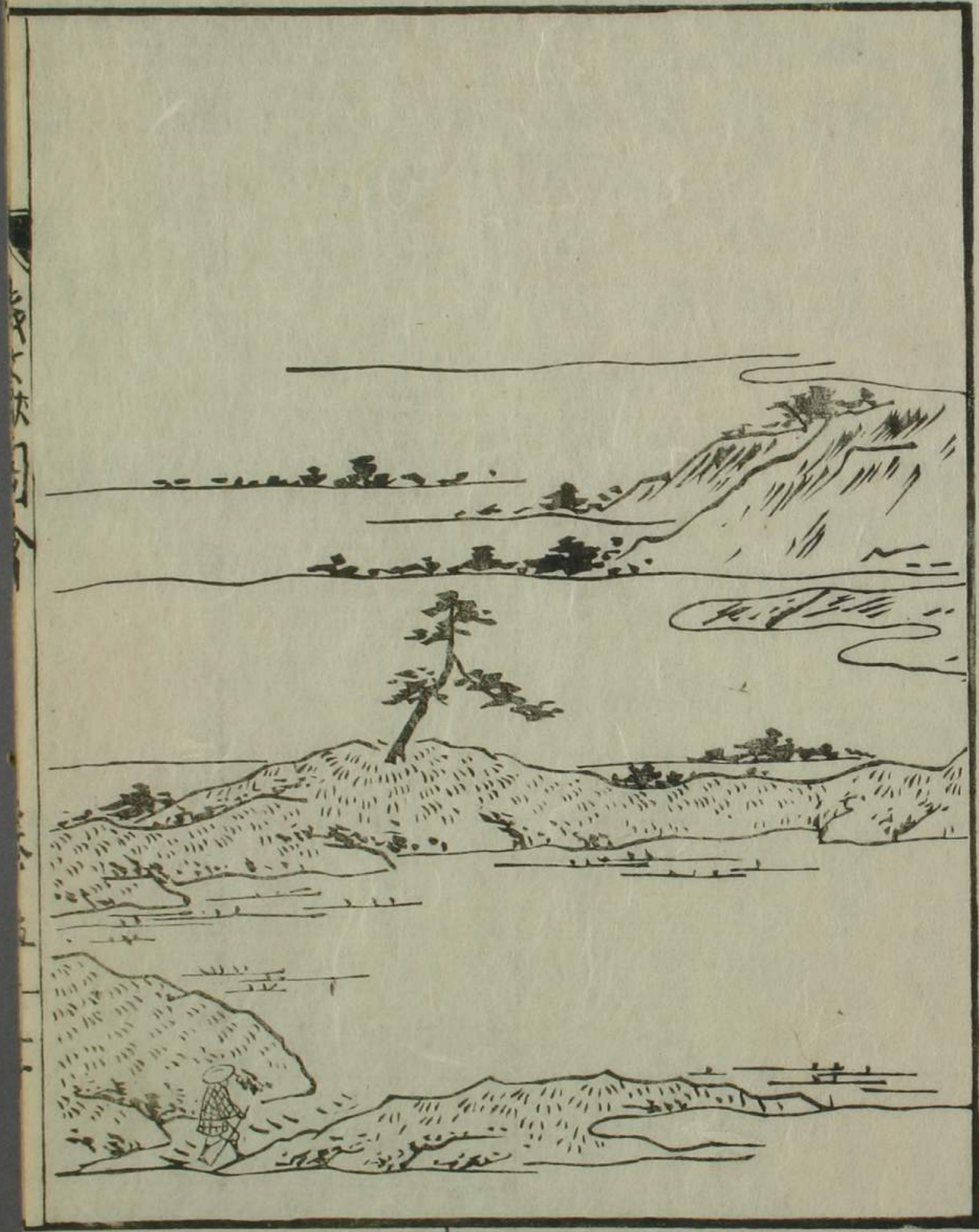
卷八十五



東海道圖

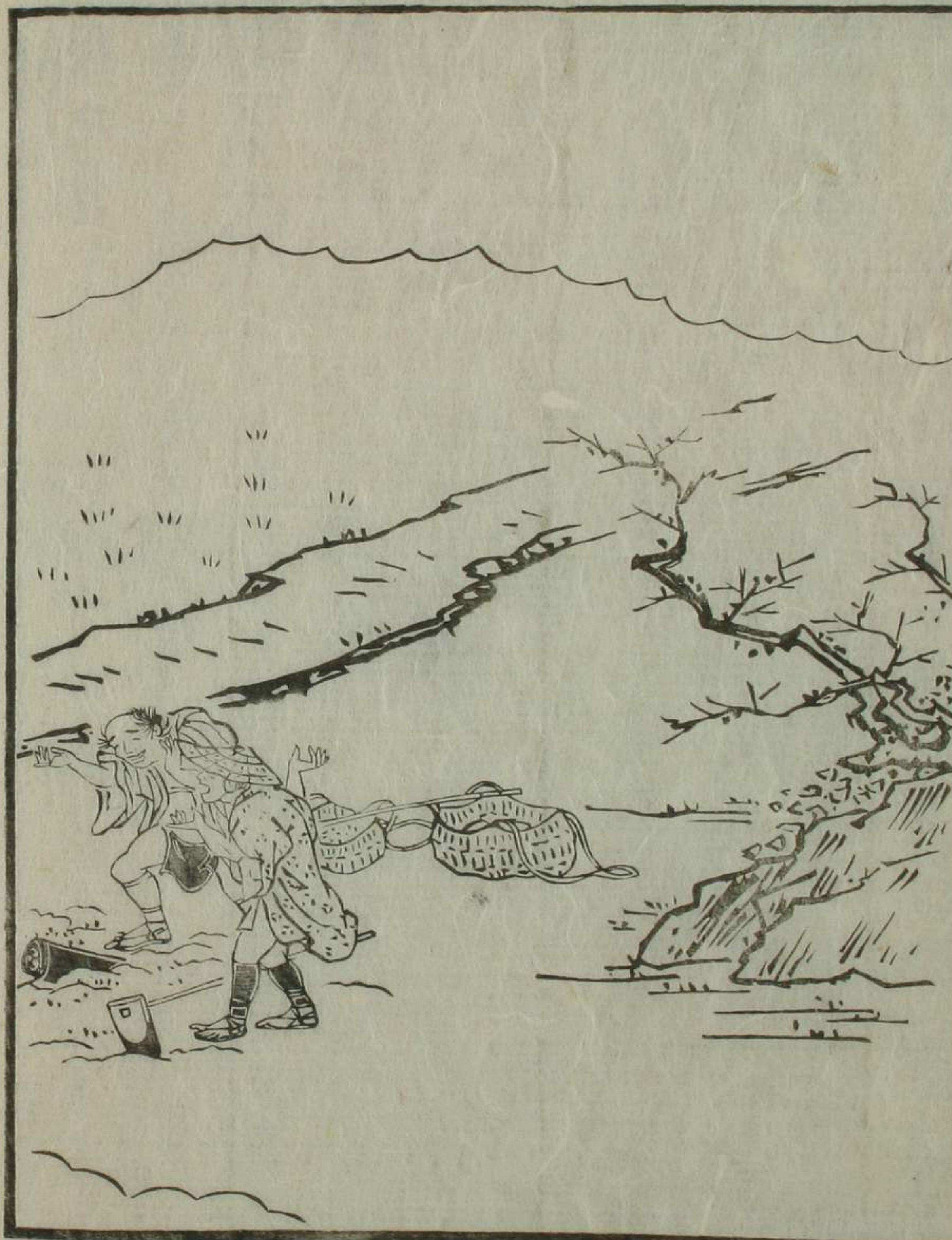
卷八十五

100



見
嶺
圖
全
景

卷
八
五
十



賣ばるる海へて先とてやいあるゆり船工を
 以ては洞狭文ハ金味草の刀とハ異にして
 其精良な依のごとく二部よお入り
 ひとおく莫多の金銀坊家るるを
 名川の急りに勢亀鍛工
 近くは洞狭の奴をうろり良な風金味
 ようろる

兵糧濱

妙ヶ嶽より西南にあり
 糧運送の所と云ふ
 是我の御兵
 之の字

け所よそ刻ハ巻立たつて兵糧なたく是を
 日ハ本陣并衛隊へ送のよ
 製時ハ狼烟と云く相告
 西柙林東柙林は石より加味をせしむる
 備と云

湖 賤ヶ嶽圖會卷之五 昇

拔

猿原の忠利があらる所がた
 け乃野舎とあるに秋田のあつる
 徳圖會といふ所ふしとてたつた
 海を号舎といふけな又流

以に冷本大谷記の記あり亦
 多東越西越記乃又法小や心
 美る人后海といふは湖の美との記
 寛政土巳未年林鐘上弦
 又又煙魚女

發 兌 書 林

京都三條通

出雲寺文治郎

江戸日本橋通

須原屋茂兵衛

同 芝神明前

巴田屋嘉七

大阪心齋橋通

河内屋喜兵衛

同

河内屋茂兵衛

伊勢津

篠田伊十郎

名古屋京町通

美濃屋伊六

同本町通十丁目

美濃屋清七

